

都道府県・指定都市番号	55	都道府県・指定都市名	新潟市	研究課題番号・校種名	2(4)小学校
				領域名	E S D
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名(児童・生徒数)	新潟市立新潟小学校(515人)				
所在地(電話番号)	新潟市中央区東大畑通1番町679番地(025-228-3059)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.niigata.city-niigata.ed.jp/				
研究のキーワード ・ E S D×各教科・領域で目指す姿の具体化 ・ S D G s を取り入れた単元プラン ・ 授業での有効な手立ての検証(課題設定の手立て, 自ら考え協働する姿を促す手立て)					
研究結果のポイント ○ E S Dの視点で目指す子どもの姿を具体的に設定し, すべての学年で各教科・領域での授業実践に取り組んだ。そして, 目指す姿に迫るための手立て(①課題設定の手立て, ②自ら考え協働する姿を促す手立て)の有効性を, 授業研究を通して検証した。 ○ E S Dの視点での教育課程編成を推進し, 「地域理解」「防災」「国際理解」「人権」の4つの内容と各教科・領域の学習を関連させた単元プランを作成したり, 学校行事を行ったりした。これを, 単元プランやE S Dカレンダーとしてまとめた。 ○ 2年間で実践した, 各教科・領域での授業実践や, 教育課程編成を, 来年度以降の教育活動に生かし, 生徒エージェンシーの涵養につなげていく。					

1 研究主題等

(1) 研究主題

自ら考え 協働する子ども

(2) 研究主題設定の理由

①これまでの研究から

前研究では「主体的に聴き, 自分の考えを深め, 広げていく子どもの育成」を目指し, 「聴く」ことに注目した授業改善と, 未来社会を切り拓く力を育成する教育課程の編成を進めてきた。友達の考えを大切に, 比較検討しながら自分の考えを再構築・深化させる学習を継続することで, 子どもは社会の中で活用される資質・能力である論理的思考力を高めたり, 折り合いをつける力を身に付けたりすることができた。これは, 子どもたち一人一人が自ら考え未来社会において地域社会の一員として協働して活躍するために必要な資質・能力につながるものである。

②社会の情勢から

グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など, 社会の加速的な変化から, 今年度より施行される学習指導要領には, 次のように述べられている。

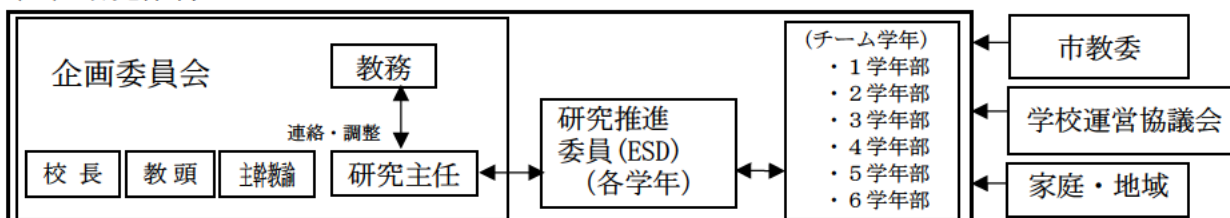
これからの学校には, 一人一人の児童(生徒)が, 自分のよさや可能性を認識するとともに, あらゆる他者を価値のある存在として尊重し, 多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え, 豊かな人生を切り拓き, 持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

これを受け, 当校では, 児童の実態, 保護者, 地域, 教職員の願いを基に, 教育目標の見直しを図った。そして, 児童に求める資質・能力を「挑む力」「やり抜く力」「認め合う心」「支え合う心」と定め, 新教育目標「たくましく 美しく」を掲げ, 新教育課程「新小プラン」を編成した。これはE S Dで重視する能力・態度の中の「コミュニケーション力」「他者と協力する力」「つな

がりを尊重する態度」「進んで参加する態度」等に合致すると考える。そこで、これまで目指してきた「持続可能な社会の担い手の育成」をさらに深化させ、直接的に持続可能な社会の創り手を育む教育である「E S D」の枠組みから当校の教育課程を見直し、編成していく必要があると考えた。

以上のことを踏まえて、当校の研究主題を「自ら考え 協働する子ども」とした。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和2年度	4月	研究全体会 ・1年次の研究の方向性についての共通理解
	8月	研究全体会 ・研究発表会に向けての共通理解
	9月～	生活科・総合的な学習の時間の授業研究 (指導案検討, 他学級での事前授業, 授業協議会 等) オンライン研究発表会に向けての実践, 準備 (指導案検討, 他学級での事前授業, 職員の zoom 研修 等)
	11月	オンライン研究発表会 (全体発表, 授業公開, 協議会, ご指導)
	2月	国立教育政策研究所教育課程指定校事業研究協議会での発表 (2月)
	3月	研究全体会 ・1年次の成果と課題についての共有 ・来年度の方向性についての協議
	年間	研究のまとめ (冊子) 作成, 配布 学年経営戦略会議 (単元プラン作り, 教育課程の見直し, 実践の振り返りなど)
	令和3年度	4月
8月		研究全体会 ・研究会に向けての共通理解
6月～		各教科・領域での授業研究 (指導案検討, 他学級での事前授業, 授業協議会 等) オンライン研究発表会に向けての実践, 準備 (指導案検討, 他学級での事前授業, 職員の zoom 研修 等)
11月		オンライン研究発表会 (全体発表, 授業公開, 協議会, トークセッション)
2月		国立教育政策研究所教育課程指定校事業研究協議会での発表 (2月)
3月		研究全体会 ・2年次の成果と課題についての共有 ・来年度の方向性についての協議
年間		研究のまとめ (冊子) 作成, 配布 学年経営戦略会議 (単元プラン作り, 教育課程の見直し, 実践の振り返りなど)

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① E S D の視点で育成したい資質・能力の具体化

新小プランで育成したい資質・能力(「挑む力」「やり抜く力」「認め合う心」「支え合う心」と、「E S D の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」とを結び付け、単元で育成したい資質・能力を設定し、授業研究を基に、子どもの姿の具体化を図る。昨年度の生活科・総合的

な学習の時間の実践を基に、今年度は各教科・領域での実践を推進する。

②内容の重点化を図った教育課程編成と単元づくり

これまでの教育活動を、E S Dの視点で捉え直すことにより、それぞれの教育活動を教科横断的に結び付け、一層の充実を図る。当校の実態や育成したい資質・能力を踏まえて、核となる内容を「地域」「国際理解」「防災」「人権」の4つとし、S D G sと結び付けて教育活動を推進する。取組をE S Dカレンダーとしてまとめる。

(2) 具体的な研究活動

①E S Dの視点で育成したい資質・能力の具体化

- ・新小プランで育成したい4つの資質・能力と、E S Dの視点で重視する7つの能力・態度とを結び付けて今年度の研究で目指す姿の具体例を作成した。

<今年度の研究で目指す姿の具体例>

新小プラン	E S Dの視点	具体例（これを例とし単元プランや指導計画に位置付ける）
挑む力 やり抜く力	①批判的に考える力	・他者の意見をよく検討，理解して取り入れる。 ・積極的，発展的によりよい解決策を考える。
挑む力	②未来像を予測して計画を立てる力	・見通しや目的意識をもって計画を立てる。 ・他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる。
認め合う心	③多面的・総合的に考える力	・様々なものごとを関連付けて考える。 ・人，もの，こと，社会，自然などとのつながりを理解する。
認め合う心	④コミュニケーションを行う力	・自分の気持ちや考えをまとめて伝える。 ・自分の考えに他者の意見を取り入れる。
支え合う心	⑤他者と協力する態度	・相手の立場を考えて行動する。 ・仲間を励ましながらチームで活動する。
認め合う心	⑥つながりを尊重する態度	・自分が様々なものごととつながっていることに興味をもつ。 ・様々なつながりを尊重し大切にする。
挑む力	⑦進んで参加する態度	・自分の言動に責任をもち，役割を理解する。 ・ものごとに主体的に参加しようとする。

- ・これを受けて，単元レベル，授業レベルでの目指す姿を設定した。

<単元レベルでの目指す姿>（4年図画工作科「アートレポーターになって」）

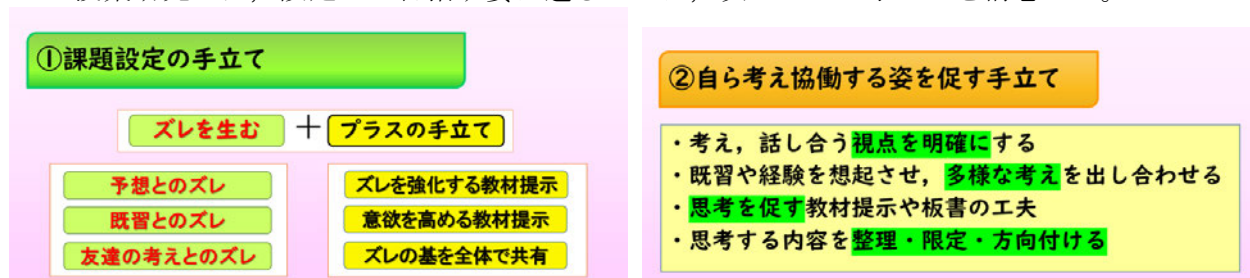
新小プラン	E S Dの視点	目指す姿
挑む力 やり抜く力	①批判的に考える力	・自分と友達の見方や感じ方を比較し，共通点を見付けたり，違う見方や感じ方があることに気付いたりする姿
認め合う心 やり抜く力	③多面的・総合的に考える力	・身近な美術作品のよさを，形・色・イメージの視点で考える姿
認め合う心 支え合う心	④コミュニケーションを行う力	・自分が絵から感じたことや考えたことを伝えたり，友達が感じたことや考えたことを受け入れたりする姿
挑む力 やり抜く力	⑦進んで参加する態度	・進んで美術作品を鑑賞し，形や色から感じたことやそれらの組合せから感じたことを伝える姿

<授業レベルでの目指す姿>

新小プラン	E S Dの視点	本時で目指す姿
認め合う心 支え合う心	④コミュニケーションを行う力	自分が絵から感じたことや考えたことを伝えたり，友達が感じたことや考えたことを受け入れたりする姿

- ・単元レベル，授業レベルでの目指す姿を，研究主題「自ら考え協働する子ども」の姿とし，全学年で授業研究を行った。

- ・授業研究では、設定した目指す姿に迫るために、次の2つの手立てを構想した。



- ・授業研究を通して明らかになった成果と課題を、学力向上・E S D推進だよりにまとめ、全職員で共通理解を図り、次の授業研究につなげた。

②内容の重点化を図った教育課程編成と単元づくり

- ・単元や題材の内容によって、関連するSDGsを選択して取り上げ、各教科・領域での単元づくりを行った。

<p>「防災」 5年 理科「流れる水のはたらき」 単元を通して理科の知識と水害や水害を防ぐ工夫とを関連付けて振り返る活動を位置付け、防災への意識を高める。</p>		
<p>「国際理解」 3年 社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」 いろいろな国から原料を仕入れることよさを、様々な立場（生産者、消費者）から考える活動を通して、国際理解を深める。</p>		

- ・核となる4つの内容（「地域」「国際理解」「防災」「人権」）で、教育活動をまとめた「新潟小学校版E S Dカレンダー」を作成した。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 各教科・領域での目指す子どもの姿の具体化
授業実践を通して、E S Dを位置付けた単元プランを作成し、E S D×各教科・領域の可能性を探り、目指す子どもの姿の具体化を図ることができた。
- 目指す姿に迫るための二つの手立ての工夫
授業実践では、課題設定の手立てとして、自ら考え協働する姿を促す手立てを構想し、手立ての有効性を協議し、共有することができた。
- E S Dの視点での教育課程編成
E S Dの視点での教育課程編成をSDGsと関連させて行い、単元プランや新潟小学校版E S Dカレンダーとしてまとめることができた。
- 新潟小学校版E S Dカレンダーの充実
作成したE S Dカレンダーを基に実践を重ね、見直しをしながら充実を図る。

4 今後の取組

(1) 新潟小学校版E S Dカレンダーの充実

今年度作成したE S Dカレンダーを基に、来年度以降実践を重ね、見直しをしながらさらなる充実につなげていく。また、SDGsへの意識が高まるように、子どもと目標を共有してそれぞれの学習や活動を進めることができるようにしていく。

(2) 生徒エージェンシーの涵養

今年度の実践を通して育成した資質・能力を、OECDのラーニングコンパスで述べられている「社会変革を実現するために主体的に行動する力、生徒エージェンシー」につなげていく必要がある。